

第5章 保存活用の基本方針

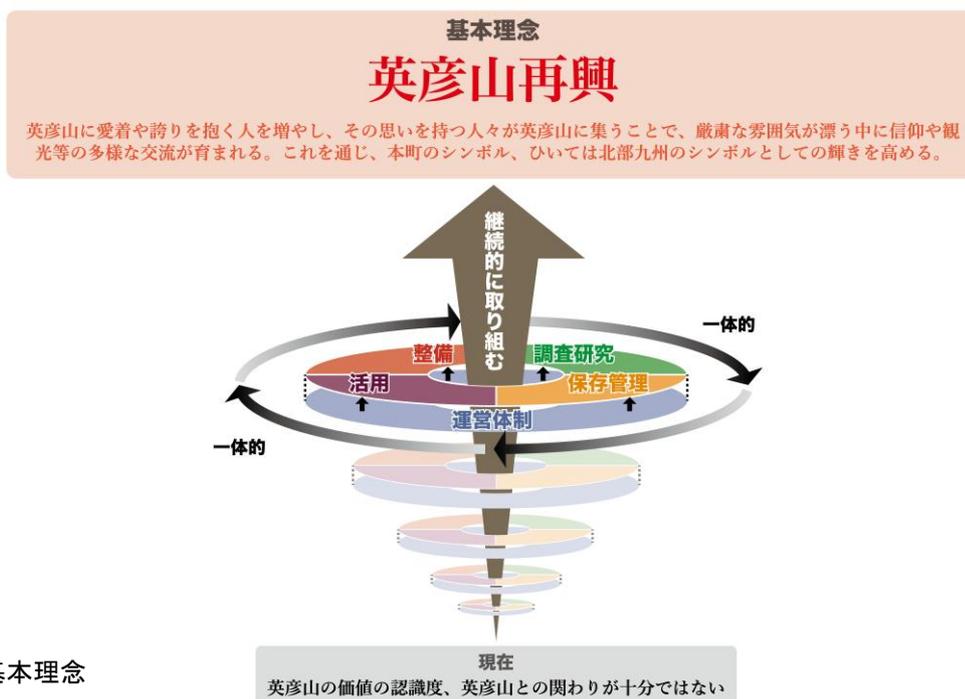
5-1 基本理念

英彦山は、古代から現代まで続く信仰対象の山であり、多くの人々が来訪する、九州を代表するシンボルの一つである。古代から信仰が見られた英彦山は、中世に入り修験集落が形成され、近世に入り戦国動乱期の堂宇・坊舎の消失から、諸大名の庇護の元で再興を遂げ、参道を主軸に多数の坊舎が建ち並ぶなど、修験集落の最盛期を迎えるに至った。これら英彦山修験道を物語る遺跡が今日まで遺され、我が国の修験・仏教・神道の在り方を考える上で重要な遺跡として、その価値が認められ、国史跡に指定された。

史跡英彦山は、修験道衰退とともに人々の離山による過疎化が進行しているものの、本町の生活や歴史文化との関係性が密接で、今でも本町のシンボリックな存在である。また、英彦山は史跡の価値に加え、長い年月をかけて育まれた自然や景勝地として、来訪者を誘引している。

このように人々を誘引する英彦山の価値を後世に継承する上では、史跡の堅実な「保存管理」と町民や来訪者等へ史跡を伝える「活用」、保存と活用を一体的に推進する「整備」を取り組むことが重要である。また、絶えず「調査研究」を進めることで、史跡英彦山の実態を解明していくことも大切である。この実現にあたっては、行政のみならず、町民や事業者、その他関係機関等が史跡英彦山の価値、守り方、活かし方の認識を共有し、連携・連動した「運営体制」が必要不可欠である。

本計画の基本理念は「英彦山再興」である。これは、町民や事業者、行政、その他関係機関等が共通認識を持ちつつ、英彦山との多様な関わりの醸成を通じて史跡英彦山の一体的な「保存管理」「活用」「整備」「調査研究」「運営体制」を進める。これらを継続的に取り組むことで、英彦山に愛着や誇りを抱く人々を増やし、その思いを持つ人々が英彦山に集うことで、厳粛な雰囲気漂う中に信仰や観光等の多様な交流が育まれる。これを通じ、本町のシンボル、ひいては北部九州のシンボルとしての輝きを高めることを目指すものである。



図表 140 基本理念

5-2 取組の基本的な方向性

基本理念を踏まえ、「保存管理」、「活用」、「整備」、「調査研究」、「運営体制」の各取組について、取組の基本的な方向性を下記の通り設定し、史跡の保存活用に取り組む。

(1) 保存管理の基本的な方向性

史跡英彦山の価値を堅実に保存するため、個々の構成要素とともに長い時間の中で形成された空間構造の両面から保存管理の徹底を目指す。また、関係者の協力の下、史跡指定地周辺の保存管理を目指す。

(2) 活用の基本的な方向性

史跡英彦山の認識向上や英彦山への愛着、誇りを醸成させるため、史跡英彦山の価値の情報発信、学習機会の提供、英彦山に親しむ多様な機会の創出を目指す。

(3) 整備の基本的な方向性

史跡英彦山の保存管理と活用を一体的に進めるため、史跡英彦山の価値を構成する主要な要素の保存整備、史跡英彦山の価値を分かりやすく伝える活用整備の計画的整備の推進を目指す。

(4) 調査研究の基本的な方向性

史跡英彦山のさらなる価値向上のため、史跡の価値やこれを構成する要素に係る調査研究、保存活用の方法や技術に係る調査研究の推進を目指す。

(5) 運営体制の基本的な方向性

史跡英彦山の保存活用を一体的、継続的に推進するため、英彦山再興を多様な主体間で共有し、産学官民連携による信仰、地域振興、文化財保護の視点から運営体制の構築を目指す。